

諸藩藏版書目筆記

止

和?
769
4止



明加
卷 769
4止



諸藩藏板書目筆記卷之四

信濃 東條耕子藏著

門人 佐藤養君正校

○ 彦根藩弘道館

逸周書十卷三本

一名汲冢周書 未知撰書者 孔晁注

白石道人詩集二卷一本

宋姜夔撰

琴所稿刪三卷一本

澤村維顯撰

菘園集十卷後篇十卷遠編十二卷合二十本

云野

臺撰

草廬詩集十卷二編十卷三編十卷四編十卷五

編十卷六編十卷七編十卷八編十卷合二十四
本 龍云美撰

草廬文集十卷尺牘五卷合七本 同上

凝煙舍詠藻二卷二本 村田泰足撰

○ 那路藩好古堂

四書便講十卷六本 佐藤直方撰四本
尾頭鹿樞撰本

大學全蒙釋言一卷孟子盡心口義一卷合一本
同上

蘭高遺稿六卷一日百首詩稿一本合六本 四本
歌廐

楊文學
仲身撰

國語畧說五卷五本 岡信於撰

國策考注六卷六本 同上

姬路城隸郡二十四封考康傳二卷 首額白醫
主人著

未寬政十二年四月稿成
按小藩之志道君の別考人

宋明道本國語二十一卷附錄六卷合八本 葛西實
校刊

陶說六卷六本 清朱孫撰
同上校刊

通俗唐詩解二卷二本 葛西實撰

清之朝實錄採要十六卷十六本 村山偉撰

神令二卷一本 一條兼良公撰

詩緝三十六卷 宋巖繁撰

是ハ今度雕刻ニシテ其ノ一トシテ本教未
知ニシテ

振興藩の花板也
先年葛西健花、語山白鷺侯名忠道字怒
海白鷺、号々性質明敏、一、業とこのこ
佩文韻府、潤鑑類函の二書と翻刻あり、
きの意あり、其費容易なり、其所以
成るに能く、字考成、一、儒士と優待、一
藩む、一、山崎流の學凡、一、偏僻の字
多し、一、同永一郎と号信あり、文學大

ふむけ、ハこの信を教へ、一、水

○松山藩明教館

幸脩館造稿四卷一本 藩主定通君
詩集

○米名藩立教館

求言録一卷附録求純説一卷合一本 藩主板川
源定

信著

通雅五十二卷廿七本 明方以智撰

山谷類跋八卷四本 宋黃庭堅撰
唐休復校刊

獨看和歌集十二卷十二本

集古十種四十二卷四十二本

花月草紙八卷四本 以上三種 樂府侯撰

素石の儒匠唐鑑壹八巻栗山の門人水子

余樂望幽々交難一々その人々水子と知る

遂小あまゝと夜接する事々々々々々々々々々々

其著々々々々々の著述編一巻最末小行二巻

と持一々余々々々々々々々々々々々々々々々々々

樂源信々々々々の方以香々々々々々々々々々々々

物程小減々々々々々々々々々々々々々々々々々々

肆須原屋伊八々々々々々々々々々々々々々々々々

了事や々々々々々々々々々々

○高田藩

新定儀礼備考一帖

松氏文章十巻後篇十巻合十本 二種村松 貞去撰

○郡山藩

吾書百三十巻六十本 唐房喬 孝撰

宋書百巻廿五本 梁陳 伯撰

南齊書五十九巻十本 梁蕭子 頴撰

梁書五十六巻十本 唐姚子 廉撰

陳書三十六巻 口上 以上六史共類志村三友 協川後群萩生末古内門

茂卿 國談

廣金石韻府五卷五本 清林尚菱字根口撰
善辰校刊

孫子國字解十三卷十三本 物茂卿撰

詩類苑四卷四本口上

組集集廿卷附録一本合廿本口上

四声國字通四卷 牧田方毅撰

柳宗元の始祖保山侯崇と好んで著述し既

にわがく書く我土の史漢後漢書之國志

此外の歴史の翻刻なり學者の史學小史

まをわがくしる第曆格と全於雕刻あり

して宝永中志村之右衛門細井次郎を

又田中省吾菽生宗右衛門去跡理平安藤仁

右衛門等の時儒教書院延致して校正を

之書より以降の南朝を以て正統とすれを

先の南朝とす終止して志村菽生の二

人小余して右の五史と雕刻あり

後續て北朝を魏書北齊書周書南北史と

隋書唐書と雕刻あり

時小和州郡山一轉村ありて事故あり

成りて故小京沙の書肆松會之五郎

松本ありて

夫一て其のう小書言のこまに残る小雕
刻は是れ一々も也は好くも其宋書南方
梁書諸書とすも也は好くも好事家
いあはれども世人あはれく好くも時
歴史と翻刻するの志ありせらるる諸侯
河ハ保山侯の如く全部と中さハ一
分は事なりとれハ七余の一史を翻刻
いハ史學の裨益となり

○小倉藩

辨道解疑二卷二本

石川正恒撰

石塔先生文鈔四卷二本

石川正恒撰并勝
二子之集録也

○忍藩

四朝別史

○中津藩

字実提要十卷

清玉鶴撰

此書ハ惣目一巻提要十巻本編四十二巻附
録七巻総々六十巻ありて湛自題ハ正字通
ハ語彙と訂正ハ旁ハ康誼字典の字彙
と指搦ハ断然ハ其底版と辨駁且
編中小清の古祖古宗世祖世宗高宗の

歴代の彫碑と紀と一由一七世目の仁宗嘉
帝のときと王錫侯子王霖王霈著孫王
壯飛王靈飛王崩飛著を漏一勅一々字費の
鏤板と毀棄一との書を禁止を彼土小何を
ていいうも時之法令違犯と一ハ
禍い子孫におうひ一と形水よりあはれ我
土一々一書諱寇の一勅となれ々崇者の碑
益少一々一先年會成善自々態法よ一々一
全形彫刻一々一々一は一々一先ハ提要
と彫刻あり一々一々の子會成柏司余小

語々々

○福山藩

呂氏春秋廿六卷六本 秦呂不韋撰
塩田七校刊

小學纂注六卷四本 清高愈撰
北桑讓校刊

韓非子翼鏡廿卷附録二卷合十本 活字板
大由方撰

漢吳音圖四卷三本 口上

○白川藩遊藝館

曹大家女戒注一巻一本

鳳樓詩行四巻一本 河心誠撰

鳳樓詩二稿二巻一本 口上

温公書儀 四本

○大垣藩

名公四布一巻一本 旧本数部 元

東陽文集十巻三本 守屋煥の撰

○土浦藩都文館

漢隸字源六巻六本

正字千字文一巻一本 一石楷書 教法明季 彦撰

五體千字文 国思恭撰

国源内ハ旧古筆紙ハ門人ノ文学ノ以テ

土浦藩小笠住ト名思恭字子南鳳長ト号ト

、終々臨池の癖ありて筆札の精小甚と晩

年ハ書名のため小掩りてその紫樹と志

し人ハ其重名其寧字子永南樓ト号ト孫

名克明字子徳満南ト号ト曾孫名思亮字世

達東陽ト号ト東陽を時行書類纂十二巻撰

編輯之余ト屢文一乃祖ハ漢隸字源を撰

数種成都文館トて雕刻ありてその板本

ハ書肆市川六右衛門ハ藩ト号ト其ト

其後鑄板の在斯と知ト余ト為ト小法

ト乃ト其儒長上原平仲ト号ト小都文

館山傍樂流すれ、園氏なり、の學問より流
流は号す、今少ありて園氏の子孫に正將
月中乃祖の文學ありて仕つ、少少孝經
一篇と傳ふ、のりして昔朝の饒年を以て
於て藩中より儒流とありて、の形く書
者流以て月より、の形く

○古河藩盈科堂

標箋王注孔子家語十卷五本

魏王肅注

標箋楊注荀子全書廿卷十本

唐楊注二種十
葉去々標箋

雪華圖説一卷一本

續雪華圖説一卷一本

二種 許原
侯撰

古河侯の先侯特匠原尚庵が權人より儒臣
小倉より一藩の學流古河に疏御より
之に、唐津城より尚庵右衛門字云程雙桂
と号し、その業を伊藤東涯小雲と宝曆
中侯先封の地古河へ移封ありて、後尚庵茂
古河の藩者目小雲より、宋楊荀子二書の標
箋と藩の花板より、声價一時小雲より、
以て、松延年の文集中小雲より、その後
二書板本書辭へ賜り、藩より、その家語に

江戸書肆嵩山房より再板多し荀子
ハ板本焼失し其傳本板多し希

○ 濱松藩経道館

熊耳文集正編十六卷詩集四卷合八本餘系伝

明四先生文集四卷四本日上

澹園集初稿十卷三本杖以正撰

野泉帖二本

丙丁桐戒録二卷二本塩石弘撰

熊耳翁ハ僕ハ祖又通菴常々詩文を以て人小
學ハ今の刻本ハ熊耳集正編と誤して可也

ハニ編ハ續編ハ終ハ雕刻ありきなり
一ハその子孫と訪身と一ハその藩の儒官小
田切要助の書ハ今ハ断絶してなり
因テ一奇事ハ僕年来を世文士の事歴を
訪攷して各人の傳記と著ハ人トして各
家の遺書と収集と事百種とて其
されとも家舊とてまつて衣食と書
編してよりつやく千種の餘よわい
年の古學小著述草稿とて經史集ハ文
ナリ我土先哲の遺書集類雜書ハ

言集結とのうさひあし〜を焼燼して好
た〜び収集の事成るの〜十年の四月下
谷針寺町我通の〜で唐傳多其門前ふむ
日も二十八日なれは熊耳蘇り夢小湯〜
集の西編の〜い世ふり〜も今ハ獲社の
學流もそく廢〜で只一人と其送書と訪搜
〜もの水〜胸中小憶能〜差門と出
て上野山下ふし〜よき人の書鋪借ら
好事癖あり成あり〜一巻其美濃命の及古
教百紙と出〜て云く享保間の儒流〜

わて誰と〜人〜も有〜ま〜あれと先
生の一図と侍ら〜紙層〜とん〜な〜僕金
年上展披〜で讀む〜前後混雜〜で首尾を
切〜と〜い〜とも熊耳蘇り未踏〜で後某と
存〜と〜稿中なれは僕と編を〜して編む
得〜か〜つ〜る〜ぬ〜神小蘇り雲陰小僕〜と〜成
ま〜と〜の〜反古紙披〜ら〜の〜ら〜小編
纂〜で六中〜な〜ぬ〜さ〜れ〜は〜子孫〜
〜の〜て送書ハ賣却〜して手澤の形本轉展〜
て僕ら掃墓の日ふ〜と〜て目ふ〜と〜ハ

以奇... 編中の関係...
... 漢国集...
... 紫舎... 雕刻...
... 村意... 諸家人物志...
... 正字...
... 秋元...
... 梅...
... 於尋...
...

○唐津藩傳習館

黄山谷年原帖 岑右善校刊

○丹波龜山藩通訓堂

新編歴史微七十二卷

古押漣八卷七本

史編奇鈔七卷七本 以上松崎祐之撰

觀海集十二卷六本 松崎維時

雪樓集十卷三本 中島漢撰

○掛河藩拭目館

海録碑事廿二卷七本 宋葉廷珪撰

○龍野藩

魏野四孝傳四卷二本

○ 魏仁藩

子叢摘芳二卷

○ 篠山藩

中注孝經補義一卷一本 福井軋撰

大學衍義補百六十卷五十本 宋真德秀撰 明邱濬補

通鑑學要前編二卷正編十九卷後編八卷明北

八卷合十五本 清鄭培謙撰

梅々百五十六年市々剽剽も近時のう〜

字優ふなり〜と〜真西山より原本の大學

衍義四十二卷と系類の書籍〜々雕刻志

〜々〜々同〜々陳仁錫より校訂此衍

義補〜々雕刻志〜々雨振〜々〜々元

福中の事〜々〜々の後天明戊申の京師大火

〜々板本焼失〜々書籍も再板の力も〜々

篠山侯京師の忠勤役中書考惜〜々〜々

板不出書〜々〜々性時坊刻〜々〜々

宗勅撰の由製古倫書六十三卷三十卷江元

祚より孝經大全二十二卷十本黃道周より孝經

集傳八卷四本陳哲より春秋胡傳集解三十卷

十五本陳子龍。詩經毛門二十一卷十本蔡
清。四書國史合考二十四卷二十五本盧一
誠。四書詳述二十四卷廿本の。皆く
燒板。の。書。何。も。返。て。清。國。の
散。終。一。の。皆。く。諸。家。の。書。目
中。も。執。り。著。述。の。醇。派。と。し。て
至。て。陳。哲。蔡。信。の。道。學。碎。解。陳。子。龍。黃。道。周。
第。札。高。邁。い。と。の。人。な。ら。ず。皆。く。小。品。
世。の。諸。侯。の。書。我。も。不。得。く。存。す。
と。知。る。も。一。部。の。答。と。廢。て

再刻の書。の。た。り。事。の。世。の。文。士。と。し。て
の。一。部。の。答。と。廢。て。存。す。

○中村藩

- 霞城諱義二卷一本
 - 經義折衷一卷一本
 - 經義緒言一卷一本
 - 鳩杖語二卷一本
- 以上井純令撰
尾修平撰

○上田藩

- 封内孝子傳二卷二本
 - 封内異行傳
- 桂希言撰

○岩城平藩施政堂

大學章句講筵句義三卷三本 日本類岩城後
垣分互撰

陸奥岩城疆界路程全高一帖 錫田三善撰

琉球入貢紀畧一卷一本 日上

○関宿藩教倫館

古本蒙求三卷三本 龜田興枝刊

五穀稻梁辨一卷一本 日上撰

○丸岡藩懷風館

雲進錄三卷後錄三卷合六本 関黎撰

○高島藩長善館

○岩城平藩施政堂

樵談一卷一本 宋許棊撰

華疇二卷一本 明王達撰

鷺湖詩集十卷三本 日本歌源志
林子所著

函訪八勝畵詩一卷一本 吉田清撰

○福智山藩

泰西輿地畵說六卷六本

西洋錢譜二卷二本

增補改正珠貨孔方鑑

增補改正珠貨孔方畵鑑

新選錢譜十五卷十五本

泉貨分量考一卷一本

○岩村藩

六經畧說一卷一本 右筆純撰

世話類備四卷二本 西島世興撰

祥刑要覽二卷一本 明吳訥撰
若山松校刊

開廠賑粥法一卷一本 錄倉石見撰
丹村淑祜校刊

○烏山藩

詩韻會英吳因解十八卷四本 清劉文蔚原輯
以法萃直襄二任

校刊

桂林遠稿八卷六本 純維直撰

○長島藩文禮館

松秀園書法三卷

○壬生藩

永嘉八面鉅

○安中藩造士館

備忘錄四卷四本

倭山吟稿一卷一本

東還日記一卷一本

西征吟稿一卷一本

○泉藩

臺山集五卷二本

臺山二集七卷三本

二種 藤志如撰

○ 神戸藩教諭堂

古言録二卷一本

荷蘭子三卷二本

荷蘭畫集十二卷二集十二卷三集十二卷合十

八本

あまハ皆南時の神戸侯高祖名忠統字大乾

荷蘭は号一物祖來の高才村邑西臺子水

一時的著述の諸家集中ハ西臺侯と稱と

享保壬子の歲神戸小移村に志統君某侯

好んで李王の備録を撰録しよりハ高才村

蘭子ハ十六部の美徳紙に載し最上の品

拾五はせりハ秋邦ハ十六ヶ國の神社佛閣

を納りテ蓋シその意ハ一ヶ國ハ一節の様

ありテ古人の書と名山石室へ寄スの意

ありテまハ高貴の身ハ古ハ雅

言致のわハいハ堪ハ古ハ録ハ

録板ハ古ハ焼ハ余ハ今ハ存ハ其

藩の儒ハ深ハ郎ハ余ハ存ハ其

○高取藩

大和凡雅七卷三本

並鄂百絶一卷一本

卷首題出好才植村
原長廷君撰

自娛高道章二卷一本

内藤景文撰

○田原藩成章館

春秋五編一卷一本

宋呂大圭撰

月泉吟社稿一卷二本

宋吳渭編

四庫全書同明目錄三卷四本

清劉善勳善撰

全部二百卷の内經書の部の之

天地或問論六卷

詩筌五卷二本

夾鳩造稿二卷一本

以上鷹見正長撰

○山中藩

五種遠規十二卷十二本

清陳宏謀編撰

按、訓俗遠規六卷教女遠規三卷苦生遠

規三卷水戸人世一日も欠けず必讀の

書なり

○相良藩

論語古説十卷五本

紫唐軌説二卷二本

弄華辨一卷一本

以上三種川田良興撰

○山上藩

眠龍館印巻二卷二本

○宮川藩

女減和解一卷一本

三子孝狀一卷一本

旧本題作希守
紀正穀撰

按、ふこの書ハ二板あり原刻ハ寛政中
あり新刻ハ天保己未六月の嗣侯正氏君の

布と裁と正穀字元方采真と号し結小行書

と能く大まふ

以上四十家

東京林縫之助藏書

